

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 5 月 17 日更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～39,400 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 36,000～40,700 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 14,500～16,850

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～161.350 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～108.350

エリオット波動とは

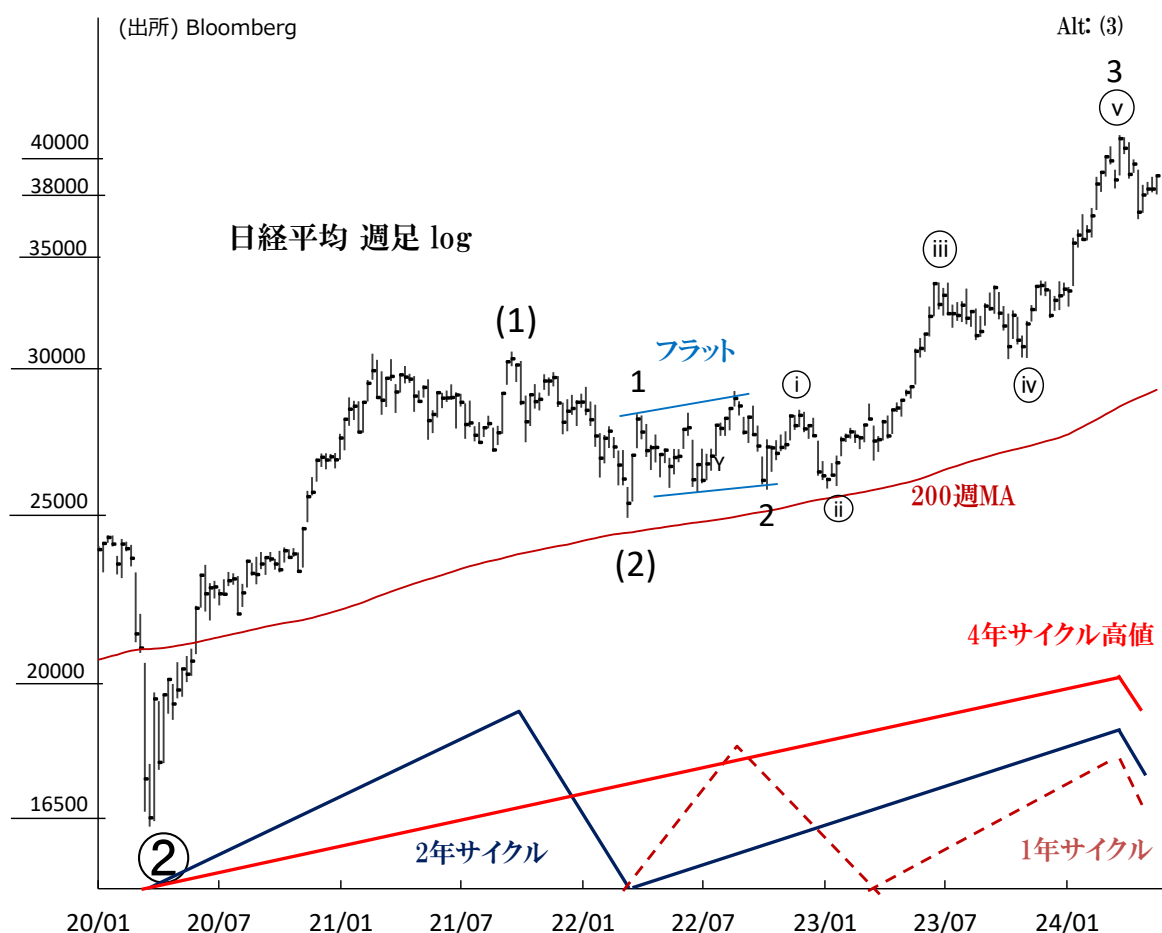
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足・エリオット波動分析】

24,681 円(22/3/9 安値)以来、③-(3)波による上昇トレンドが進行中とみられます。この「サード・オブ・サード」による大ラリーが終わるのは、おそらく 2025 年以降のことでしょう。

41,087 円(3/22 高値)から、(3)-4 波による調整局面とみています。

(3)-2 波は、およそ半年間の「フラット」でした。「オルタネーション(交互)」に従い、3 月高値からの (3)-4 波は「ジグザグ」か「トライアングル」を形成すると思われます。

日経平均は 3 万 5000 円～3 万 4000 円まで下押し可能性があります、そんな下げを以て(3)-4 波は終わり、(3)-5 波の上昇が始まるとみています。

日経平均が最終的に底打ちするのは(現行 4 年サイクルが終わるのは)今年 11 月までのどこかの時点、特に 6 月頃を注目しています。

4 年サイクル(48 カ月)の伸びしろ(オーブ)は 8 カ月(48 カ月の六分の一)です。20 年 3 月から 4 年 8 カ月が経過する時点が今年 11 月です。



【日経平均 日足・エリオット波動分析】

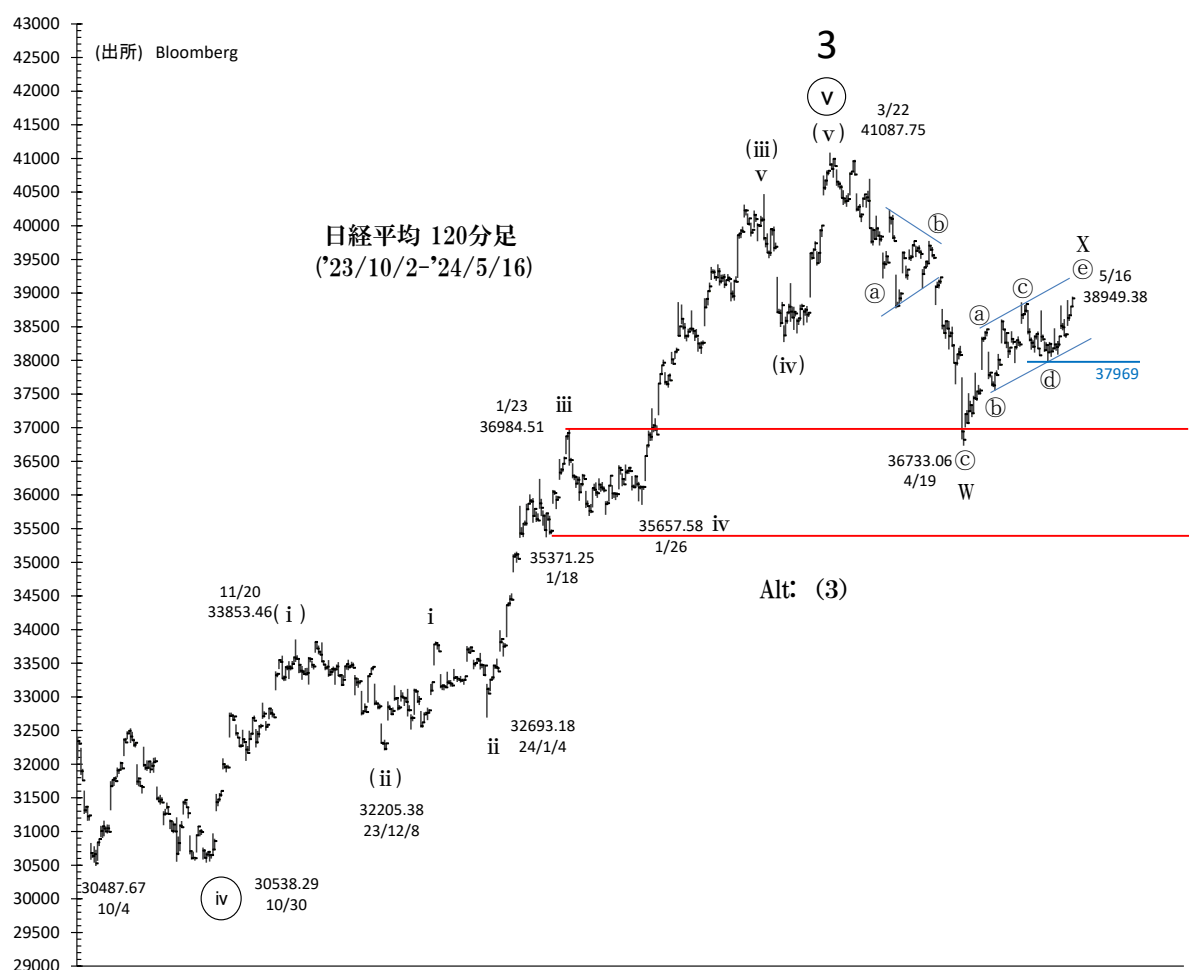
41,087 円(3/22 高値)以来、第 4 波による調整が進行中とみています。

36,733 円(4/19 安値)からは(100 日 MA にサポートされた格好です)、第 4 波におけるリバウンド局面が続いています。

昨年 6 月から 10 月までの停滞期においても、8 月下旬に 100 日 MA がサポートとして意識され(チャートに↑で示した時点)、日経平均は 9 月下旬までリバウンドしたことがあります。

決算発表シーズンが終わりました。日経新聞によると、上場企業 25 年 3 月期の純利益は前期比 4%減の 5 年ぶり減益予想となっています。

一方需給面では、**裁定買い・信用買いともに大きく膨らんでいます。**信用買い残は 18 年ぶり大きさ(4 兆 8645 億円、4 月 19 日時点)から減り始めていますが、いまだに高水準(4 兆 6979 億円、5 月 10 日時点)であることに変わりありません。**当面は売り圧力が強い**と思われ、日経平均の調整は継続しやすいでしょう。



【日経平均 時間足・エリオット波動分析】

36,733 円(4/19 安値)からは X 波によるリバウンドとみられます。

5 月 16 日高値(38,949 円)は、3 月高値からの下げ半値戻り[38,910 円]に相当しており、**リバウンド終了**かもしれません。

この見方は 37,969 円(5/13 安値)を下回ることによって強化されます。そうすると、日経平均は Y 波の下げにより、以下の下値メドを順次試していくでしょう。

[35,813 円]…マル v 波上昇の半値(50%)押し水準

[35,657 円]…第(iii)波のレッサー・ディグリー iv 波安値

[35,371 円]…1 月 18 日安値

[35,179 円]…上昇第 3 波(22 年 10 月 3 日・25,621 円が起点)の 38.2%押し水準

[34,924 円]…高値から 15%下げ

[200 日 MA=34,631 円](4/26)

[32,870 円]…高値から 20%下げ

ただし 37,969 円を維持する限りはリバウンドは継続し、引き続き[39,424 円](3 月からの下げに対する 61.8%戻り)を打診する可能性があります。

【5 月 16 日 15:34 更新】

NY ダウ



【NY ダウ日足・エリオット波動分析】

NY ダウは 22 年 1 月高値(36,952 ドル)から、プライマリー級④波を展開中とみています。22 年 10 月からの上昇は④波における(B)波であり、それは「不規則天井(イレギュラー・トップ)」です。(B)波の後に続く(C)波の下落スケールは、(A)波の下落(22 年 1 月～22 年 10 月)に匹敵するか、あるいは、より大きなものになるでしょう。

NY ダウは 5 月 15 日に過去最高値を更新し、翌 16 日には初の 4 万ドルに一時乗せました。

3 月高値 39,889 ドルは(B)波の終点でなかったことが判明しましたので、今回より次のように波動カウントを改めます。

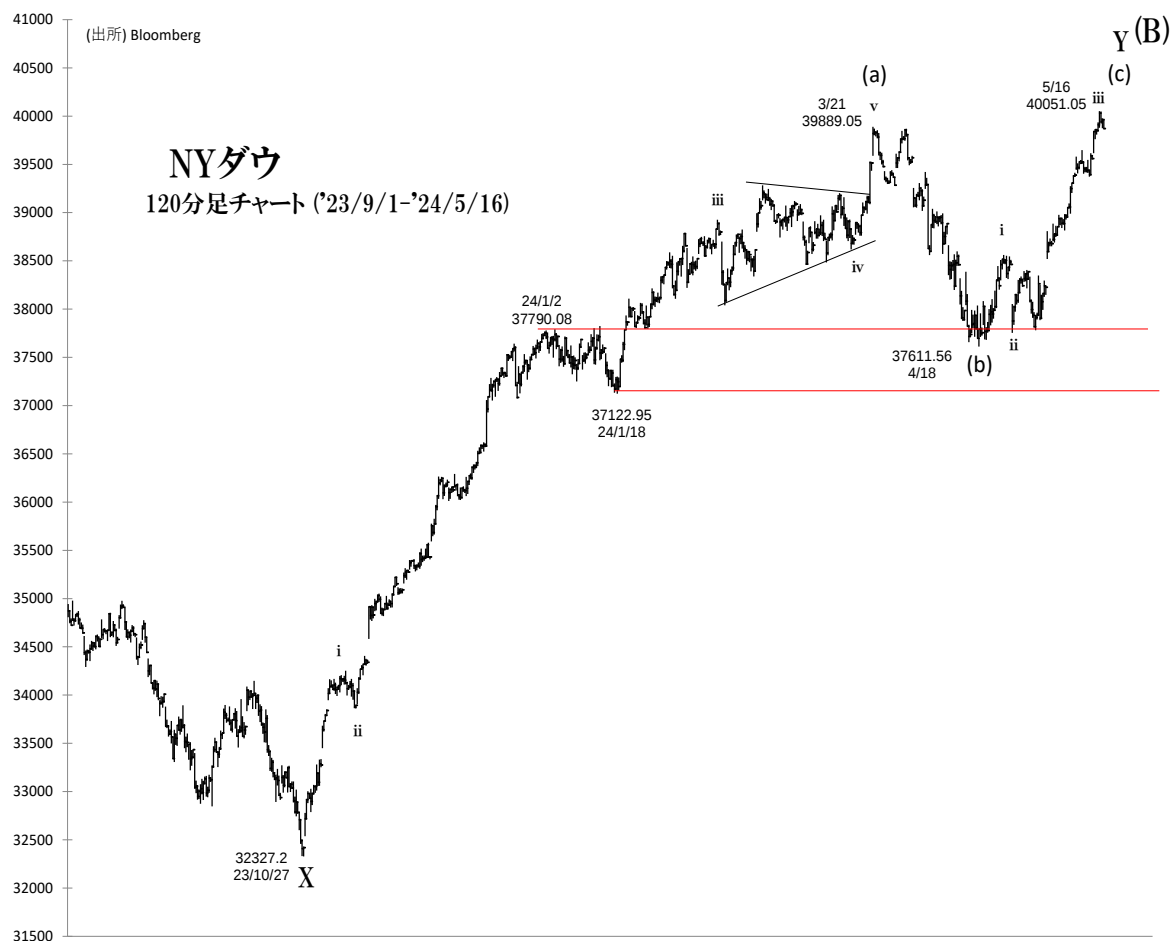
22 年 10 月安値(28,660 ドル)を起点とする④波中(B)波の上昇は、ダブル・ジグザグ[W-X-Y]を形成している、とみられます。そのうち、23 年 10 月安値(32,327 ドル)からの上昇は Y 波ジグザグ[(a)-(b)-(c)]です。

5 月 16 日に NY ダウは一時 40,051 ドルまで上昇、以下のチャート節目が視野に入っています。

[40,120 ドル]…(A)波の下落幅に対し 1.382 倍が(B)波の長さ

[40,690 ドル]…上記ダブル・ジグザグにおいて、W 波と Y 波の上昇幅が 1:1.382

【5 月 17 日 8:34 更新】



ナスダック



【ナスダック総合指数日足・エリオット波動分析】

21 年 11 月高値 16,212 から、プライマリー級第④波に位置付けられます。この第④波における(B)波が、22 年 12 月から進行中です。

④-(B)波による上昇はこれまで、[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]を形成しています。直近安値 15,222 (4/19) からの上昇は、Y 波(④-a-b-④)中④波に位置付けられます。

ナスダックは 5 月 16 日に一時 16,797 まで上昇しましたが、これにより、W 波と Y 波が等しく上がる水準 [16,783]を達成しました。ナスダックの不規則天井(イレギュラートップ)は、いつ付けてもおかしくないと思われます。

はたして「5 月に売れ」という相場格言は、今年は有効でしょうか？ 短期的動向に引き続き注目です。



【フィラデルフィア半導体株指数(SOX 指数)・エリオット波動分析】

22 年 1 月高値(4068) 以来のパターンは[エキスパンディット・フラット]、あるいは[ランニング・フラット]と想定されます。どちらのパターンも内部構造は(A)↘-(B)↗-(C)↘です。

[エキスパンディット・フラット]の場合、(C)波の下落により、SOX 指数は 22 年 10 月安値(2089)を大きく下回るでしょう。

[ランニング・フラット]だと、(C)波の下落によっても 22 年 10 月安値は維持されます。それでも(C)波のスケールは、22 年の下落(A)波に匹敵する大きなものになると思われます。

22 年 10 月安値(2089)以来の上昇(B)波は[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]、4 月安値(4287)からは Y 波中③波の上昇とカウントされます。順当にいけば SOX 指数は、NY ダウ、ナスダックなどと同じように最高値を更新するでしょう。

なお 5 月 22 日のエヌビディア決算(日本時間では 23 日午前 5 時 20 分頃)に対する市場の反応がどうか、大いに注目したいところです。

【5 月 17 日 10:05 更新】

米ドル/円



2011年10月の75.570円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安Ⓜ波は、151.899円(22/10/21)を以て終わり、そこから2028年頃までレンジ相場を形成していく、というのが筆者による米ドル/円(ドル/円)の基本観です。直近の34年ぶりドル高・円安も基本的には、レンジ相場内の値動きの一環です。

【月足・エリオット波動分析】

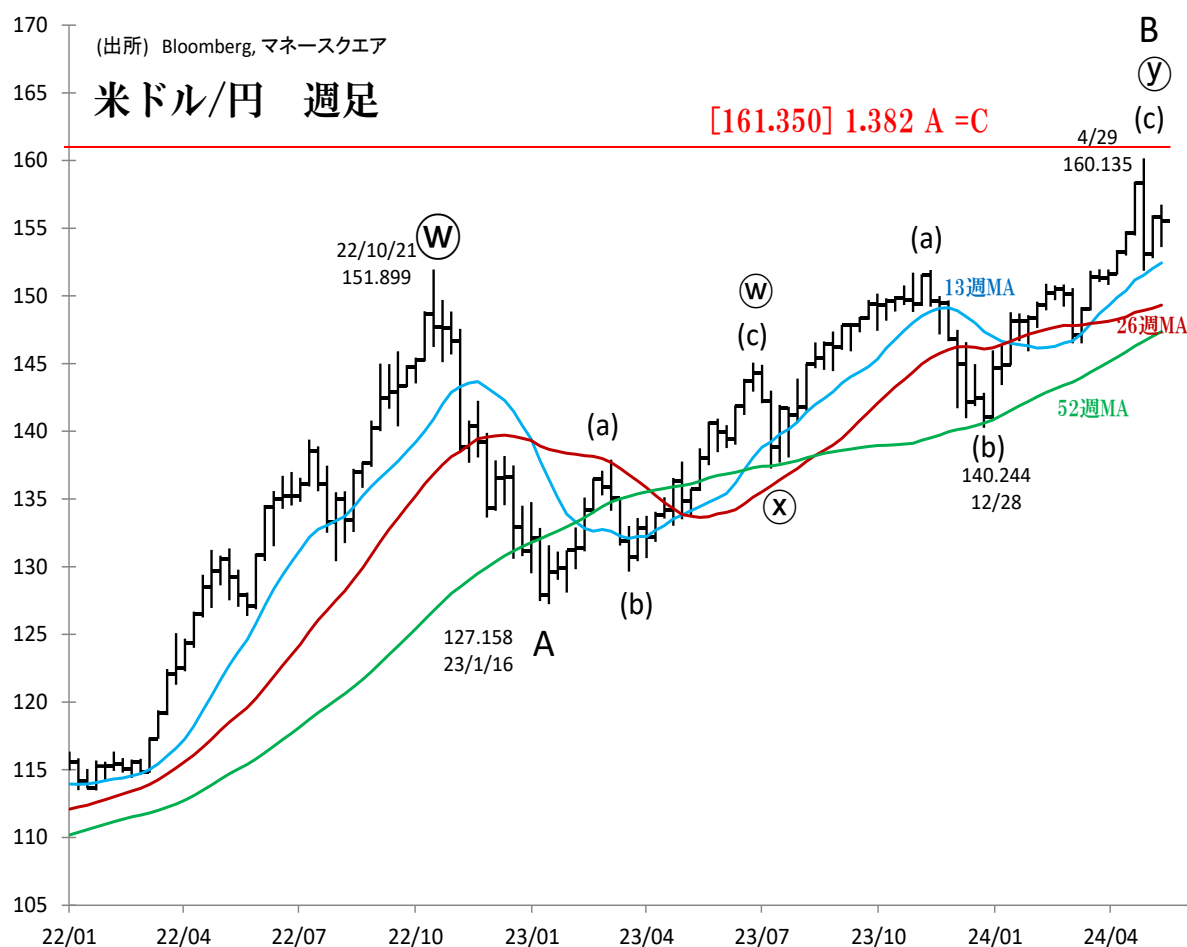
22年10月(151.899円)以来、長期円安トレンドにおける中間波・Ⓜ波が進行中です。

このⓂ波は2028年頃まで大きなレンジ相場(トライアングル、フラットなど)を形成するとみています。

ドル/円は4月29日の160.135円を以て、**8年サイクル高値※を付けた可能性があります。**

日柄面ではちょうど34年ぶり(フィボナッチ数)に90年4月高値(160.360円)に「里帰り」を果たし、水準面では第(Ⅲ)波中レッサー・ディグリー第IV波の高値に一致しています。

※およそ8年間隔でドル/円高値が巡る『8年サイクル』を振り返ると、過去もっとも長いサイクル期間は106カ月(98年8月～07年6月)でした。前回サイクル高値(15年6月)から106カ月経過時点が24年4月です。**併せてマンスリー・フォーカス(5/8付)もご覧ください。**



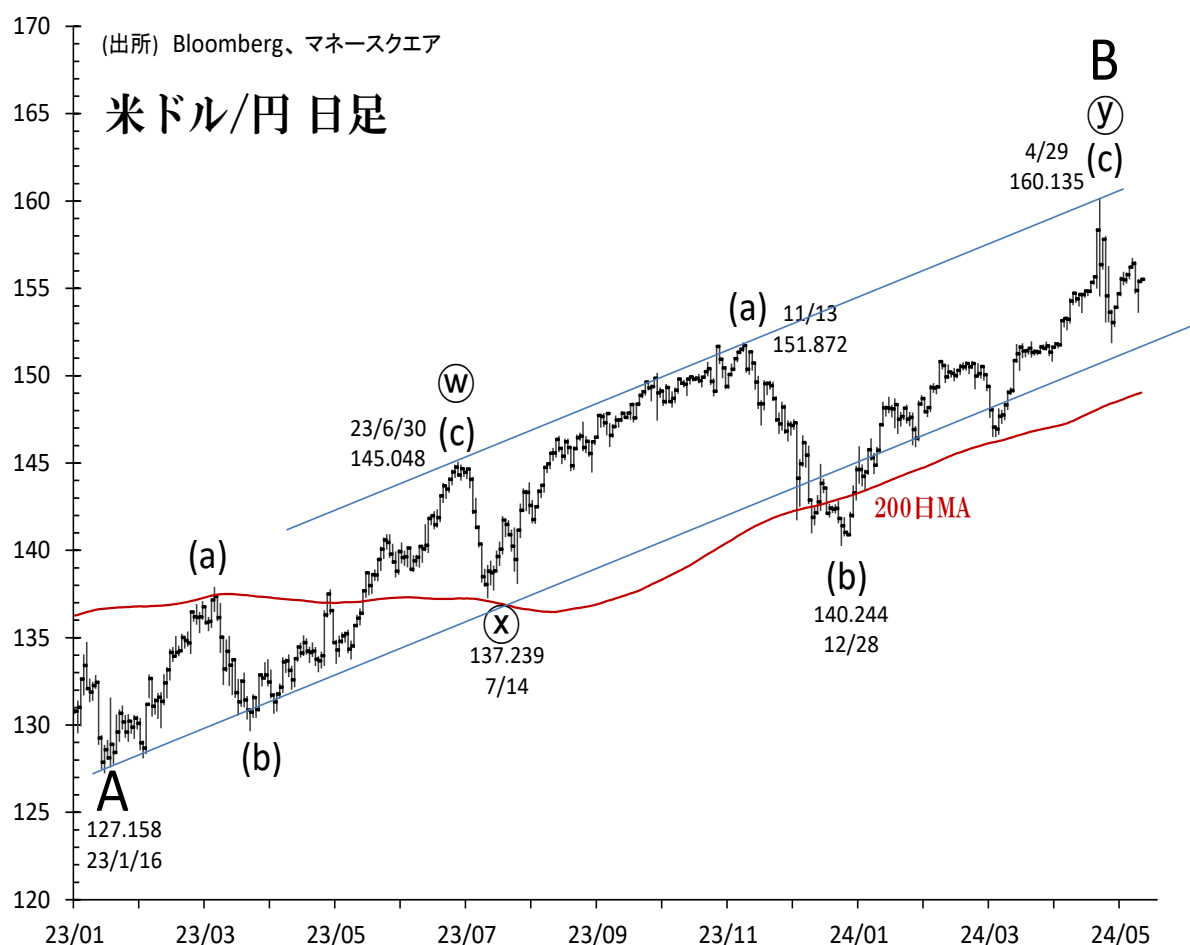
【週足・エリオット波動分析】

22 年 10 月 (151.899 円) からの A(↘)-B(↗)-C(↘) 編成において、23 年 1 月 (127.158 円) からは B 波に位置付けられ、それは 151.899 円を超えて不規則天井 (イレギュラー・トップ) を形成しています。

160.135 円を B 波終点とみなすと、B 波の長さは A 波に対し 1.333 倍になります。B 波は A 波の 1 倍超～1.382 倍の範囲内で通常は決まりますが、今回の B 波もノーマルな範囲内に収まっています。ちなみに A 波の 1.382 倍なら B 波トップの目標値は 161.350 円です。

160.135 円 (4/29) から C 波による下落局面 (ドル安・円高) が進行中とみられます。

この C 波は **今後 140 円～135 円を試す可能性** がある、と筆者はみています。



【日足・エリオット波動分析】

23 年 1 月以来の B 波によるドル/円上昇は、[ダブル・ジグザグ]編成で 160.135 円(4/29)を以て完了したとみられます。

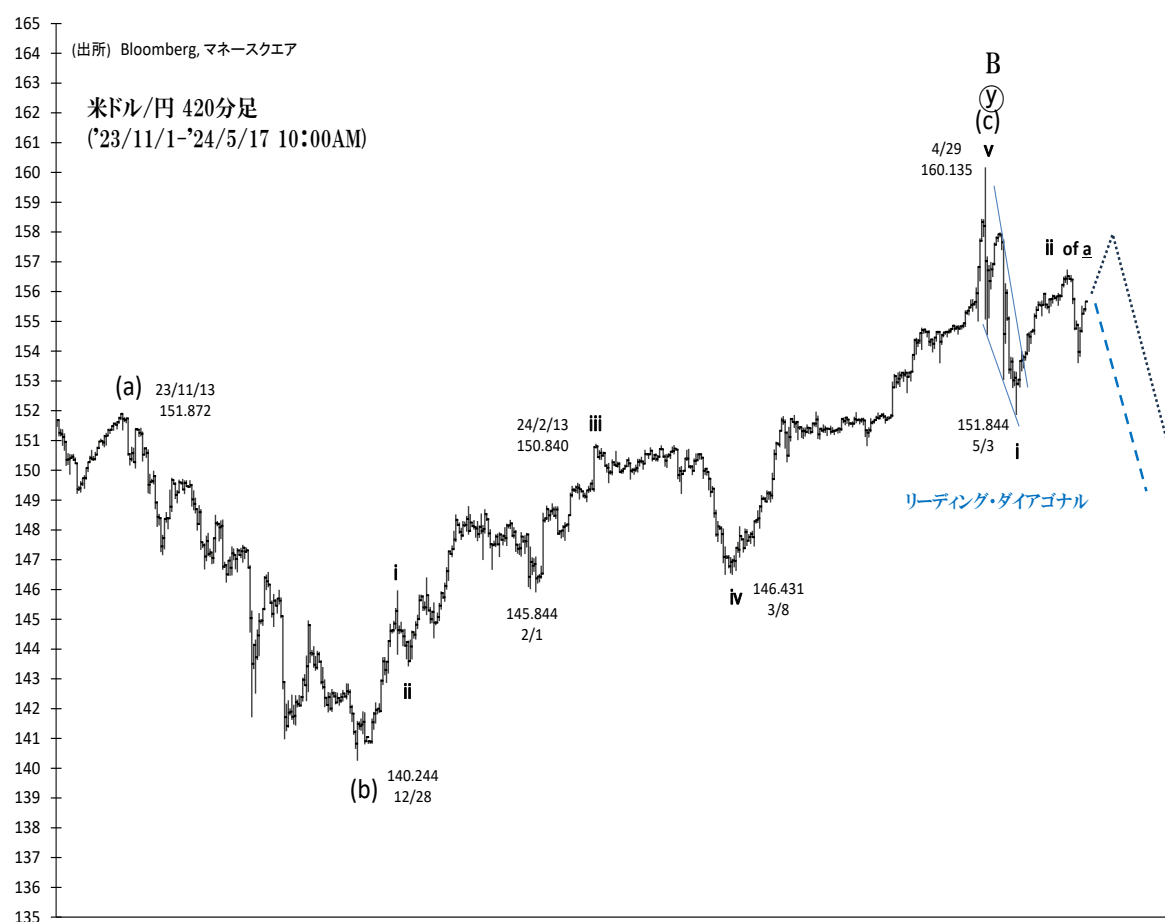
4 月に入ってから急激なドル/円上昇(152 円⇒160 円)は、日米実質金利差を反映しておらず、専ら投機がもたらした可能性が高い。8 兆円規模の政府・日銀による円買い覆面介入(4/29～5/2)は、時宜を得たものだったといえるでしょう。

日米実質金利差による試算では、現在の妥当なドル/円水準は 149.185 円程度であり、150 円を下回り始めています。

筆者は米長期金利が今後大きく下げドル安が進むとみていますが、そうなれば、日米実質金利差の縮小を反映して、ドル/円は 150 円を下回っていくでしょう。

そのような局面においては、投機筋と個人投資家の過剰な円売りポジションも解消され、ドル/円の下げは一段と大きくなることが想定されます。





【時間足・エリオット波動分析】

160.135 円(4/29)から 151.844 円(5/3)までの下落(円高)は、「リーディング・ダイアゴナル」による第 i 波とカウントされます。そこからのリバウンド(第 ii 波)は、によるリバウンドに位置付けられます。

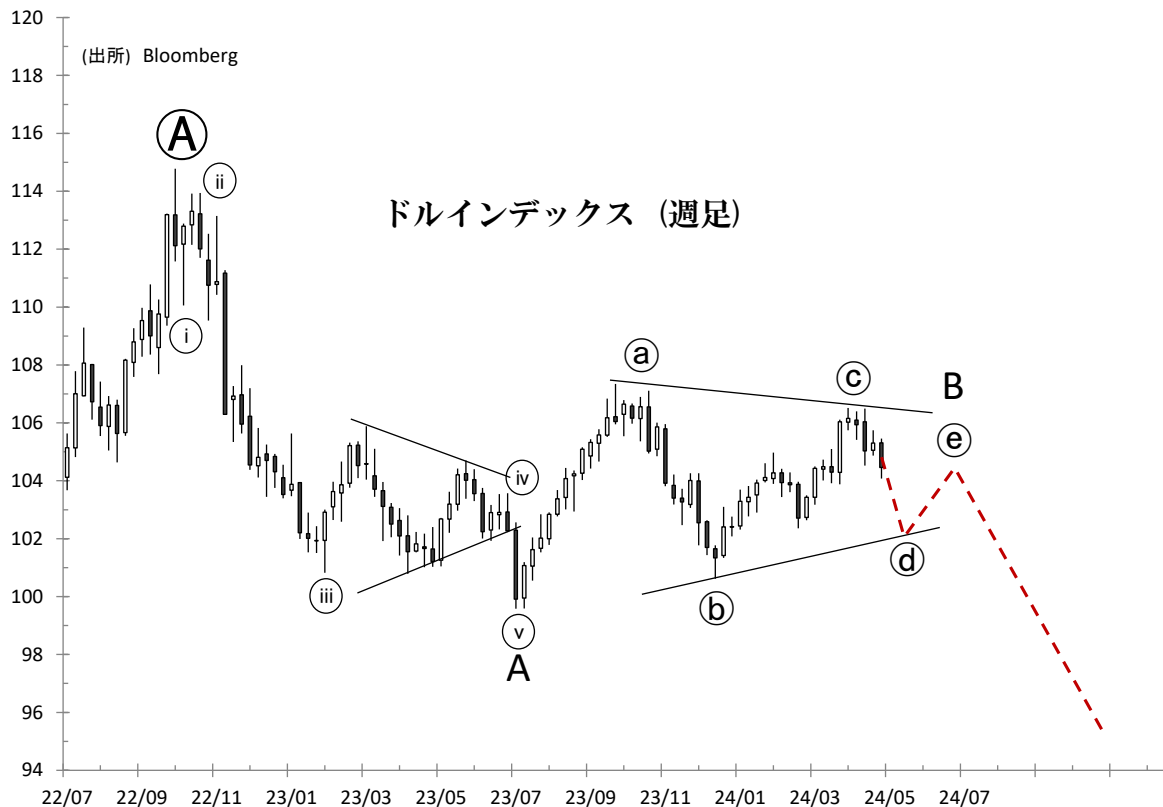
156.704 円(5/14)は、第 i 波に対する 61.8%戻り[159.967 円]に近似となっています。水準面では第 ii 波完了とみることができます。

一方、第 ii 波がジグザグ(a-b-c)であれば、目的的に 156.704 円を抜ける動きが想定されますが、その動きを以て第 ii 波は終わると考えられます。

いずれにしても、この第 ii 波を経てドル/円は、第 iii 波によるドル安・円高局面を迎えるかとみています。その際は、まずは 150 円処を試すでしょう。

【5 月 17 日 10:21 更新】

ドルインデックス (ドル指数)



【週足・エリオット波動分析】

22 年 9 月高値(114.778)以来、ドルインデックスは A(↘)-B(↗)-C(↘)編成による下落基調にあります。23 年 7 月安値(99.578)を起点とする B 波は、トライアングル(a-b-c-d-e)を形成中であり、足元は④波のドル安局面が進行中です。

おそらく今後の数週間～3 カ月以内に B 波は完成し、その後に到来する C 波によって、ドル指数は 23 年安値(99.578)を大きく下回るでしょう。

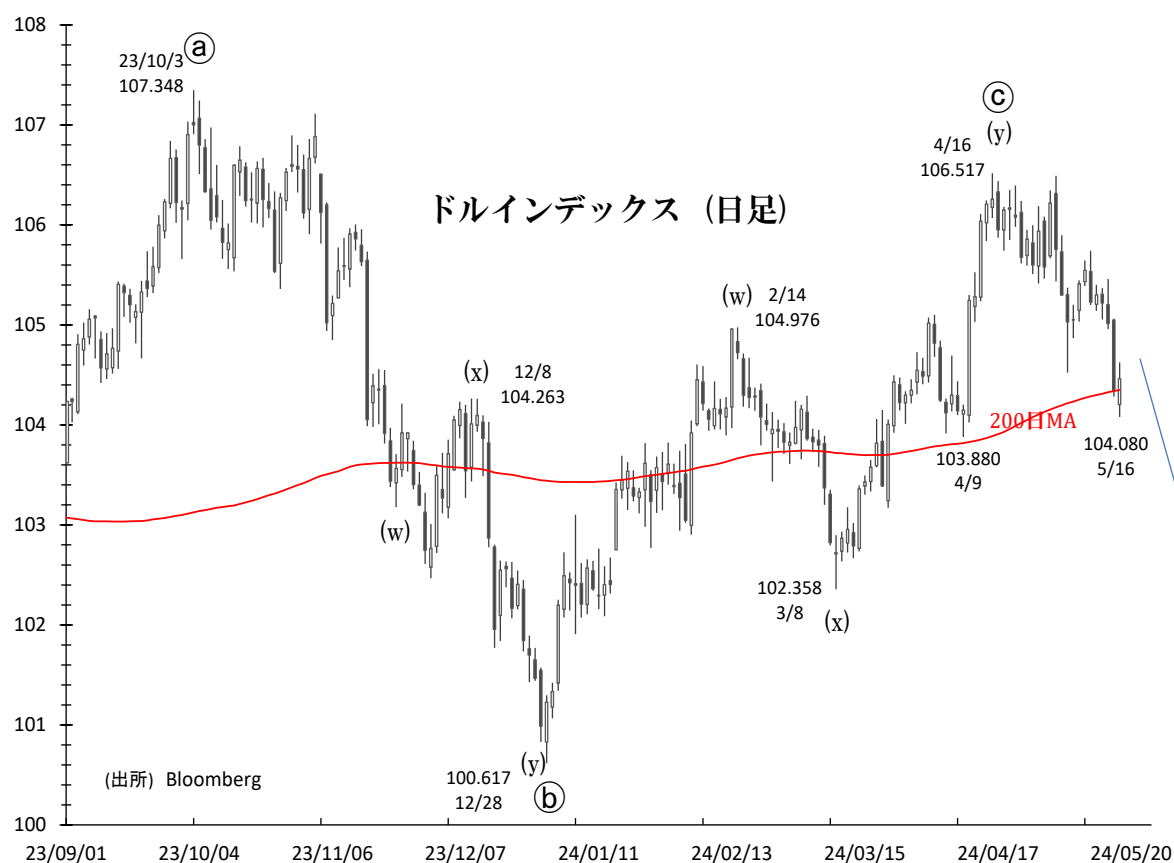
【日足・エリオット波動分析】

106.517(4/16 高値)から④波によるドル安が進行中です。5 月 16 日には一時 104.080 と 103.880(4/9 安値)に近づき下げ渋る動きとなっています。200 日 MA も意識されやすく、**短期的にはリバウンドの可能性**がありそうです。

もっとも遠からず[102.358-100.617]を目指すでしょう。102.358 は 3 月 8 日安値のことですが、このレベルは、③波のドル高に対する 61.8%戻り[102.357]に一致する、強いサポートレベルと思われます。

この④波の後に⑤波によるドル高局面が続きます。現行波動カウントに従えば、⑤波が 106.517 を上回ることはありません。この⑤波をもってトライアングル B 波は完成し、C 波による本格ドル安を迎えるでしょう。

【5 月 17 日 10:34 更新】



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関しての注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。また、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
